

2010.5.11 「5.31 鳩山退陣の国民運動を起こそう」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

連休が明けて、国会が再開されましたが、鳩山総理の普天間基地を巡る迷走ぶりは、とどまるところを知りません。私達は、連休前の4月28日、参議院の予算委員会の理事会において、鳩山総理の普天間問題と、小沢さんの政治とカネの問題について集中審議をするように申し出ました。しかし、未だに民主党からはゼロ回答が送られるだけで、誠意ある対応が全くみられません。

そして今日、外交防衛委員で条約の採決が行われました。我々はそれに加え、外交防衛委員会の一番の所管事項である普天間問題について、一般質疑をしたいと申し出ました。しかし、今日は受け入れられず、今週木曜日の外交防衛委員会で、一般質疑案件にされることが、ようやく決まりました。民主党政府内で、政策の方針が定まっていないため、民主党の委員達も非常に困惑しているようです。こうしたことを始め、民主党政権のデタラメぶりが明らかになってきたわけです。

また、「5月末決着」は鳩山総理自らが設定した期限ですから、5月31日までに地元もアメリカも納得できるような最終決着がきちんとできなければ、当然責任をとって鳩山内閣は退陣するべきです。そのことを国民運動として起こしていくべきだと思います。同時に、鳩山総理だけでなく、民主党政権の退陣も要求しなければなりません。

各世論調査を見ても、3割はおろか、2割も切ってしまう内閣の支持率が出ており、民主党の政党支持率も極端に落ち込んでいます。それにもかかわらず、彼らは、衆議院では3分の2、参議院でも多数の議席を持っているのをいいことに、国民の声をまともに理解して真摯に説明責任を果たそうとは全くせず、数を頼りに奢り高ぶり、全ての法案や政策の問題点を覆い隠しています。また、法案については、強行採決が繰り返し行われています。もはや、民意の離れた彼らの政権に正当性はありません。一刻も早く内閣を退陣して、総辞職するべきなのです。そして、国会を解散し、もう一度民意を聞く。そのような国民運動を起こしていかなければなりません。しかし今の我々、自民党の力だけでは不十分です。国民が一体となり世論を盛り上げていくことで、それが実現されると思っています。

国民運動として、5月31日までに鳩山総理が公約を達成できない場合には、直ちに自らの責任を取って辞職し、国会を解散してもう一度、国民に真を問うことを要求していく運動を広げていきます。

これからも私達は、国会の場でこのことを要求して参ります。国民の皆様方、同志の皆様方には是非ともお力を賜りたいと思います。

皆様方のご支援、よろしくお願いいたします。ありがとうございました。